



9月1日の自治会の防災訓練に参加 大上地区社協は要援護登録者の安否確認を担当

綾瀬市では、9月1日（日）に今年も“相模トラフを震源地とする震度6強の地震が発生した”という想定で、防災訓練を実施しました。

この防災訓練に大上自治会は市と一体となって実施しましたが、大上地区社協も昨年に引続いて自治会の要請を受け、要援護登録者の安否確認を担当する形で積極的に参加しました。

当日は、午前9時に防災無線でサイレンが2回鳴ったあと“防災訓練のための放送です。ただ今地震が発生しました。”という放送を受け、地区社協の会員は、まず自分と家族の安全を確認した後、会員が担当する要援護登録者宅を1軒1軒訪ねて安否を確認した上で、所属の理事へ結果を報告。理事は所属する区の防災長（区長）へ報告し、防災長から大上対策本部へ報告が行って午前10時には地区社協が担当する一連の訓練は終わりました。

今回の訓練では、要援護登録者のうちの確認対象者212名に対して、安否確認できたのは186名でした。今回の訓練について市ノ澤会長は、『理事と会員の皆さんの協力のお陰で第1回目の昨年より良い確認結果となりました。やはり、日頃から要援護登録者の皆さんとのコミュニケーションがとれている証と思います。これからも、困った時はお互い様の精神で、更に地域に役立つ大上地区社協を目指して活動して行きたい。』と語っていました。



要援護登録者宅を訪ねる会員

今年も青少年健全育成会の行事に協力

大上地区青少年健全育成会は、今年も8月7日（水）に“夏休み・親子ふれあいダンボールで隠れ家を作ろう・映画会”を大上自治会館で開催しました。

この催しは、大上地区社協を始め、自治会、民生委員・児童委員、青少年育成員、小中学校のPTAなどの諸団体が協力して行なわれるもので、今年も子ども69名、保護者6名とスタッフ31名の106名が参加しました。

当日は午前9時に受付した69名の子ども達は、会館前の駐車場で5班に分かれて猛暑の中を段ボールで隠れ家を作って楽しんだ後、会館内で映画を観て、そして自分たちで作った段ボールの隠れ家の中でスタッフが準備した昼食のソーメンで舌鼓を打ち、夏休みのひと時を楽しんでいました。



段ボールで隠れ家を作る子ども達